



研究者名※	中西 裕二 NAKANISHI Yuji	学位※	修士(社会学)
所属※	人間社会学部 文化学科	職名※	教授
連絡先	nakanisiy@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	<a href="https://researchmap.jp/read0050975">https://researchmap.jp/read0050975</a>		
研究分野※	文化人類学、民俗学、宗教学		
研究キーワード※	歴史、宗教、口頭伝承、民俗宗教、巡礼、観光、仏教、東南アジア、ベトナム、華僑華人		
共同研究・競争的資金等の研究課題	日本仏教と東南アジア仏教との比較研究—政治と権力の視点を中心として(科学研究費・基盤C・研究分担者、2019～2021年) インターフェイスとしての女性と中国系移民のディアスポリック空間(科学研究費・基盤B・研究分担者、2013～2015年) フォークロア・パラドクスを止揚する(挑戦的萌芽研究・研究代表者・2012～2014年)		
社会貢献・産学官連携活動等	日本女子大学と(株)読売広告社のキャリア教育連携協定に基づく寄附講座「課題解決型ワークショップを用いた企画開発」の授業担当(2019年～)。 担当するJWU社会連携科目「地域・社会課題を学ぶ」の中で、日本女子大学が包括連携協定を結ぶ北海道日高振興局・振興局内7町の地域振興策の策定を実施(2021年～)。 川崎市多摩区との「多摩区3大学連携事業」の中で、地域振興策を学生とともに策定(2020～2021年度)		
受賞歴			

研究領域	文化人類学、民俗学、宗教学、観光研究	(SDGs)	
研究テーマ※	ビジネスモデルとしての巡礼とその現代への応用		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 中世に端を発する日本の寺社参詣＝巡礼は、寺社側が創造した顧客獲得の仕掛けと言え、キリスト教やイスラム教の巡礼とは一線を画した宗教実践と考えられる。これを一種のビジネスモデルと捉え、巡礼者・参詣者というリピーター獲得のシステムを明らかにし、その現代的応用として地域課題の解決と地域の持続的発展について考える。理論的には、イギリスの社会人類学者のニーダム(1923-2006)の多配列分類論、アメリカの哲学者パース(1839-1914)のアブダクション、ロシアの心理学者ヴィゴツキー(1986-1934)の複合的思考、フランスの哲学者リクール(1913-2005)の物語論を援用する。</p> <p>【応用例、研究の展望】 現在、学部の授業において上記の理論を用い、本学が包括連携協定を結んだ北海道日高振興局・振興局内の7町の地域課題解決についてワークショップ形式で案を練り上げ、リモート会議システムで現地と意見交換などを行っている。</p> <p>【研究方法の特色】 宗教者による巡礼システムの構築に関しては、純粋に学問的課題であるが、そのモデルを授業の中に実践的に落とし込むことが可能である。現在は新型コロナウイルスの影響から現地でのフィールドワークができない状況だが、それが可能になれば、学生とともに新しい成果を上げることができると考える。</p>		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中西裕二「旅行業と宗教—日本の観光の原風景として」『交流文化』(立教大学観光学部編)7号、pp.36-39、2008。</li> <li>・中西裕二(監修・執筆)「2000年歴史絵巻21 旅」『新発見! 週刊日本の歴史』21号、pp.33-37、2012年。</li> <li>・中西裕二「寺社参詣と観光」『観光研究』(日本観光研究学会編)25巻1号、pp.30-36、2013年。</li> </ul>		

	・Yuji NAKANISHI, Shintoism and Travel in Japan. In <i>Tourism and Religion: Issues and Implications</i> , ed by Richard Butler & Wantanee Suntikul, pp.68-83, Channel View Books, 2018.
共同研究・外部機関との連携への期待	・地域の自治体と連携しながら、地域課題の解決を図ること。 ・SDGsに係わる企業の課題を、産学連携で解決を図ること。